

---

# 夏の落とし子

天地 とんぼ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の落とし子

### 【NZコード】

N9214A

### 【作者名】

天地 とんぼ

### 【あらすじ】

僕は夏休みの塾の帰り道、一人の少年に会った。

…かーじめかーじめ。かーじのなーかのとーりーは。いついつで  
ーう。となりのばんに。つーるとかーめがすーべつた。うじろのし  
ょうめんだーれ。

だーあれ?

「キミ、どうから来たの?」

「だーあれ?」

「お母さんはどうしているの?」

「だーあれ?」

塾の帰り道。早く帰らないとお母さんが怒るのに、家の近くの公園  
で、一人の少年が近寄ってきて、いきなり《かーじめかーじめ》を歌い  
始め、

「うしろのしようめんだーあれ」と僕に問掛けている。

中学3年の僕にとって、この夏休みは戦争なのだ。

いつも親には

「頑張って勉強して、いい高校へ

と言われるし、学校の先生だって目が合えばいつも

「期待してるぞ!!」

と言つ。

だから僕は学校での休み時間だって、クラスメートに指をさされな

がらの視線を気にしながらも、『高校ヒューリティカル』の参考書を読んでいなければならなかつたのだ。

靴を隠されたり、給食が自分の分だけなかつたりしても耐えて勉強を続けた。

しかし今、この少年のせいで、夕飯までの3時間の勉強時間を削られているのだ。

この僕ともあるものが、

「キミ、迷子なのかな？」

「だーあれー？」

「だーあれーって、少年は僕の目の前にいるんだから、後ろになんて誰もいるわけが…」

「…だーあれ」

ん？おかしいぞ。後ろからも声がする。

そうか。この少年の友達だな。

みんな、よつてたかつて僕を馬鹿にして…！

「もういい加減に…」

…バタフ…

「ん？おねえーちゃん、おにこーちやんビンビンしたのかな？」  
「気にしなくていいのよ」

少年は首を傾げ、失神したおにいちゃんを見ていた。  
女は片方しかない顔を歪ませて、笑みを浮かべた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9214a/>

---

夏の落とし子

2010年11月26日07時22分発行